

東アジア諸国文化遺産保存修復協力 (②セ02-11-1/5)

目 的

本研究は、国際共同研究を通じて東アジア諸国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成することを目的として、敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画をはじめとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施し、人材養成に協力するものである。また、モンゴルの文化財保存修復事業に協力している。

成 果

〈敦煌莫高窟壁画〉

敦煌壁画の保護に関する日中共同研究は、本年度から第6期共同研究（5カ年）を始めることになった。第6期は、第5期に引き続き第285窟を対象として壁画の製作材料と製作技法に関する研究を実施し、これを完成することを目的としている。

- (1) 第5期共同研究評価会議：9月4日。本年度から第6期共同研究を始めるに先立ち、敦煌研究院において第5期共同研究に対する評価会議を開催し、莫高窟第285窟壁画の調査研究について報告を行い、中国側外部評価委員5名から、高い評価を受け、さらに引き続き共同研究を継続することが推奨された。これをもとに、第6期共同研究実施のための合意書を作成し、敦煌研究院を通じて甘肅省文物局、中国国家文物局へ許可申請を提出した。
- (2) 現地調査：2月12日～21日。第285窟の調査で残された天井部の調査に着手した。携帯型蛍光X線、顕微鏡等を用いた分析調査を実施した。
- (3) 敦煌研究院研究員の来日研修：2月27日～3月21日の日程で丁淑君、孫勝利研究員（情報管理）、于宗仁研究員（分析）を招聘し、各担当の内容に関する研修を実施した。この来日研修は、セ06の枠組みで実施した。
- (4) データベースの完成：サーバーの整備とデータ入力を進め、第285窟データベースの基本システムを完成した。
- (5) 報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の2011年度成果報告書を編集し、発行した（92頁を参照）。

〈陝西墳墓壁画〉

陝西省西安市では周辺地区の開発に伴い、近年大量の古代墳墓が発見されている。その中に毎年必ず数カ所の壁画墓が含まれるが、剥ぎ取り、埋め戻しを原則とし、作業時間も短いため、必ずしも十分に壁画情報を収集できていない。発掘機会を利用し、環境調査と保存処理、及び記録保存に関する方法検討のための研究を日中共同で行い、中国の壁画保存に貢献しようとするのが、本研究の目的である。

- (1) 現地視察：9月。陝西省文化財保護の共同研究を行うため、彬県大仏寺、陝西歴史博物館壁画陳列館等を視察して意見交換を行った。
- (2) 共同研究合意書作成：墳墓壁画に関して、陝西省考古研究院との共同研究を実施するため、合意書を作成した。
- (3) 試験的環境計測の実施：墳墓壁画についての記録保存と環境の測定・管理を実現するために、陝西省考古研究院と共同で乾陵章懷太子墓の内部に環境調査のデータロガーを設置し、試験的研究を開始した。

〈モンゴル〉

モンゴルへの文化財保存修復協力については別途受託事業の枠組みで実施した。

研究組織

○岡田健（保存修復科学センター）、川野邊渉、友田正彦、秋枝ユミイザベル、佐藤桂、渡辺真樹子、高林弘実、津村宏臣（以上、文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、二神葉子、皿井舞（以上、企画情報部）、高妻洋成、田村朋子、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）